



# 仲よく やりぬく たくましい子

令和3年(2021年) 10月22日発行 文責 校長 土永 晶

## 地域の力

10月中旬、本校校門付近に不審者と思われる人物が校舎の写真を撮影し、立ち去った。掃除をしていた子どもたちが見かけ、乗客だと思い挨拶したら隠れたとのこと。その週は、市内の3か所で別の人物だと思われるが不審者情報が続いた。今回は、直接児童生徒への被害はないが、かつて校内に侵入し大きな事件となった大阪の小学校のことを思い出す。

その週は、本校登下校時にはPTA役員をはじめ地域の方も自主的に子どもたちの見守りに参加してくださいました。本当に地域の力強さを感じ、たいへんありがたく思う。不審者だけでなく、登下校中は通学路での交通事故や天候による災害が予想される。立哨指導を行うことで初めて気づくこともある。多くの大人が子どもたちを見守ることは、予防だけでなく、子どもの感謝の気持ちを育てることもつながっている。子どもたちはけっこう大人を見ている。そして、とても感謝をしている

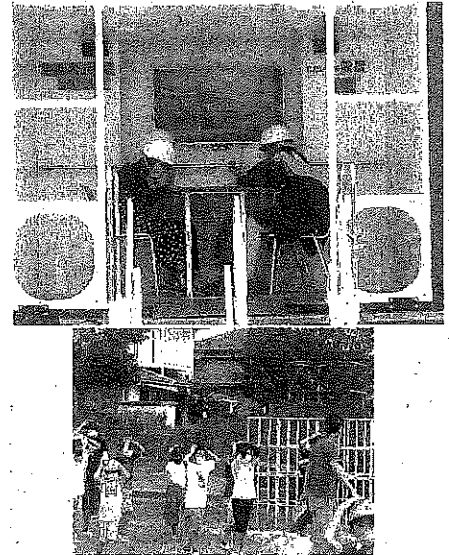
「大人から子へ、子からまたその子へ」という地域での子育ては、必ず大きな財産となり揺らぐことのない力となることを感じた。この青柳のよさを次世代に繋ぐためにも、大人がしっかりと子どもの手本となるような行動を示すことが大切である。

## 青小防災週間

10月4日(月)～8日(金)は「青小防災週間」として、地震等が起こった場合の命の守り方について、各学年で指導を行いました。通学路での危険個所の確認や、地震が起こった際の校舎内外での危険個所も確認しました。また、5、6年生は「起震車体験」を実施し、震度7の地震を体感しました。以下に感想を紹介します。7日には予告なしで、緊急地震速報を昼休みに流し避難訓練を行い、高島消防署員さんからのご指導もいただきました。ご家庭でも「備え」と「避難」について話し合っていたいただければと思います。

### <5、6年生起震車体験の感想より>

- ・地震はいつどこで何時に来るかわかりません。私は「そなえ」が一番大切だと思いました。
- ・震度6からめちゃくちゃ横とかたてに動きました。低学年の子をひばっていけるようにしたいと思いました。
- ・これから「ゆれる」と思っていたのでまじだったけど、これが急に起きるとたぶん机の下には入れないと思った。
- ・思っていたよりもめちゃくちゃゆれたしとてもこわかった。終わってから足とかがふるえました。
- ・座っていても足はつけられないし体もすごくゆれて、このゆれだったら家具も倒れるし、家の家具の置き方を見直さなければと思った。
- ・実際に地震が起こった時に周りを確認しながら身を守るのはとても難しいことだと思いました。



## こんな青柳の子に

10月8日に行われた第3回学校運営協議会で、「こんな青柳の子を育てたい」というテーマで話し合いをした時の内容を紹介します。皆さんはどのように感じられるでしょうか？

- コミュニケーション能力が必要
- 公園で元気に遊んでいるし、今のようにあいさつができる子に
- 人の話が聞ける子に
- 地域との接触から、思いやりや感謝の気持ちを育てたい
- 2年で変わっていく社会のスピードについていってる
- 除草作業など一緒に活動して大変さも学んでほしい
- 今のままでたくましく育っているし期待しかしてない
- 役をやって初めてわかることがある。祭りの意義など、書いたものを見るだけではわからないので体験してほしい
- 人から人親から子へ伝承していくことが大切
- 今の子に何をしたら響くのだろう
- A・Cなどの活動を継承させていきたい